

古琵琶湖層群から発見される哺乳類や爬虫類の化石は、約400万年間におよぶこの地域とその背景にある地球規模の気候変動や大陸との接続関係を教えてくれる貴重な資料です。

1. 残りづらい骨の化石

古琵琶湖層群は全国的に見ても多くの哺乳類や爬虫類などの陸棲動物化石が発見される地層です。化石には骨や歯だけでなく、それらの足跡化石も多く見つかっています。このように化石が多く見つかるのは、約400万年もの長期に渡って水域や湿地が続き、動物たちが集まったり、足跡が残りやすい環境が多くあったことが大きな要因です。

古琵琶湖層群から発見される哺乳類や爬虫類などの化石は、古い時代から新しい時代まで様々な時代から発見されています(図5-9-1)。興味深いのは、骨や歯の化石が発見されないところからも足跡の化石は発見されていることです。足跡が発見されているということは、当然その時代には足跡をつけた動物が生きており、死体もたくさんあったのですが、骨や歯の化石はほとんど残らなかったのです。骨や歯の化石がいかに残りにくいかが伺われます。

2. ゾウ類の化石

古琵琶湖層群から発見される哺乳化石で最も多く発見されるのはゾウ類の化石です。この傾向は全国的に見ても同様です。ゾウ類の化石は時代が移り変わるとともに種類も代わっていくのが特徴で、古い方から順番にミエゾウ、アケボノゾウ、ムカシマンモスゾウ、トウヨウゾウの4種類が知られています。さらに古琵琶湖層群よりも新しい時代からナウマンゾウも発見されています。これらの中で江戸時代に大津市南庄で発見され龍骨と騒がれたトウヨウゾウ、一体分近い骨格が発見された多賀町のアケボノゾウなどが注目されます。このアケボノゾウは、2022年に陸上の哺乳類化石としては初めて国の天然記念物に指定されました。

3. その他の化石

哺乳類化石の中で次に多いのは、シカ類の化石です。カズサジカという種類のみがはっきりと種名がわかっています。このシカは今のニホンジカと同じくらいの大きさのシカでしたが、成熟しても角の枝は3本しかなく、ニホンジカが4本あるのとは異なっていました。このほか、ウシ類、イノシシ類、ウサギ類、ネズミ類などの化石が発見されていますが、ウサギ化石は、2023年に新種として発表されました。

爬虫類の化石では、ワニ類とカメ類が発見されています。骨や歯の化石は上野層からのみ発見されていますが、足跡化石は上野層と甲賀層から発見されています。約250万年前まで琵琶湖にもワニがいたことは確かです。



4. 足跡化石

古琵琶湖層群の足跡化石は、約50箇所あります。これらは全国で知られているほぼ同じ時代の足跡化石産地の約半数であり、古琵琶湖層群から足跡化石がいかにも多く発見されているかがわかります。足跡化石は間違いなくその場を歩いた跡(現地性)であり、群れで生活していたのか、速い速度で移動していたかなど生態的なことを生き活きと伝える点で重要な化石です。これらの動物化石の移り変わりの背景には、アジア大陸との接続や地球規模の気候変動が影響しています。

年代	地質時代	地層	植物	珪藻	貝類 (種数) 50	魚類	は虫類 カメフニ類	鳥類	ほ乳類 ノウシカウシイノサシサギネズミ							
100 万年前	更新世	伊賀立 累層	堅田累層	寒冷型植物の出現	カワニナ類 の発展	固有種の 出現			● ノウマノソウ							
					現生種の 多くが出現	豊かな 魚類相			● フナ	● シカ	● ウシ					
									● ムカシマンモス							
200 万年前	鮮新世	草津累層	蒲生累層	メタセコイア植物群	中国大陸の 要素がまだ 多い	魚類相が 再び豊かになる	●	●	● アケボノソウ							
					アウラヨセイラ・ ソリダ優占	魚類相が 再び豊かになる										
						数が減少	フナ属が 多い	●	●							
							魚類相の 貧弱化									
300 万年前	鮮新世	甲賀累層	阿山累層	アウラヨセイラ・ フラエイランディカ優占		豊かな 魚類相	●	●	● ミエソウ							
400 万年前	鮮新世	伊賀累層	上野累層													

図5-9-1 古琵琶湖層群から発見される化石の移りかわり

琵琶湖博物館(名誉館長) 高橋 啓一